

受験勉強はいつからスタートすべきか？

開倫塾のおすすめは、受験1年半前の9月、つまり、小5・中2・高2の9月からです

開倫塾

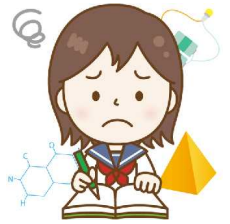
塾長 林明夫

1. <お願い>

CRT ラジオ・栃木放送、「開倫塾の時間」8月27日(土)9時15分～25分放送内容資料です。塾生の皆様も是非お読みください。8月25日(木)13時からCRTスタジオで収録の予定です。

2. (1) 日本経済新聞8月25日(木)朝刊電子版は参考になります。

(2) <教育岩盤・漂流する入試>「受験は逆転の大チャンス・『ビリギャル』モデル、小林さやか」小林さんは、受験1年半前から1日15時間、慶應義塾大学文学部を目指して猛勉強。見事、慶應義塾大学総合政策学部に入學を果たしました。



(3) ベストセラーの小説が、映画やマンガになり、一世を風靡しました。「ビリギャル」は流行語にもなりました。この「ビリギャル」は、「誰でも、やればできる」という、受験勉強の原点を示す「必読書」です。是非ご一読ください。

3. (1) 「受験勉強はいつからスタートすべきか？」というご質問がよくあります。

(2) 開倫塾では、受験の1年半前、つまり、受験前学年の9月から、受験勉強をスタートすることをおすすめしています。

①受験学年に入ってから受験勉強をスタートしなかった人は、気が付いた時から受験勉強をしたほうがよいのは当然です。受験学年に入ったら、即、受験勉強を開始してください。

②受験勉強とは、「受験全教科をスミからスミまで理解し、定着・身に着け、入学試験で合格点を取れるまでに得点力を上げること」です。

ですから、今まであまり熱心に勉強してこなかった場合には、不得意教科や不得意分野があることが多いので、割と時間がかかります。

③そこで、受験直前のスタートでは、間に合わない場合が多々あります。

(3) ①では受験勉強はいつからスタートすればよいのかが、大切な問題となります。

②入試1年前から受験勉強をスタートすれば合格できるか。

③不得意教科や不得意分野、学習習慣や読解力が不足している場合には、1年前からでは時間が足りず、難しい場合も多いようです。



4. (1) そこで、開倫塾では、受験の約1年半前、つまり、小5・中2・高2の9月から受験勉強をスタートすることをおすすめしています。

(2) ①私立中入試・公立中高一貫校入試の受験勉強は、小学5年生の9月からスタートすることをおすすめします。

②高校入試の受験勉強は、中学2年生の9月からスタートすることをおすすめします。

③大学入試の受験勉強は、高校2年生の9月からスタートすることをおすすめします。

(3) ①入試1年半前から受験勉強をスタートしたほうがよいのは、私立中入試・公立中高一貫校入試、高校入試、大学入試ではありません。

②大学院入試やTOUFL、TOEICも1年半前から受験勉強をスタート。

③国家公務員・地方公務員はじめありとあらゆる公務員試験、医師国家試験はじめありとあらゆる医療・看護・介護関係国家試験も受験1年半前からスタートすることをおすすめします。

5. (1) <具体的には>

小学校、中学校、高校、大学、大学院など、今通っている学校を卒業する「1年半ぐらい前」になったら、卒業後どうするか、自分の進路をよく考える。

(2) 自分の進路をよく考えて、上の学校に進学をしたり、就職をしたりするのに、入学試験や採用試験、国家試験などの試験を受けなければならないのなら、1年半前から受験勉強をスタートする。

(3) どのような試験でも「受験生としての自覚」を持って受験勉強をスタートする。



6. (1) 1年半では足りない場合もありますが、多くの試験は、1年半、「受験生としての自覚」を持って、「勉強の仕方を工夫」、「勉強の時間を確保」、「集中して勉強」しさえすれば合格します。

(2) ただし、医学部医学科を受験する、東京大学・東京工業大学など理系のTOP校を受験する場合は、2年前からのスタートをおすすめします。

(3) 更には、司法試験や公認会計士試験、税理士試験など、専門性が高く、学習範囲の広い難関な国家試験は3~4年前からのスタートをおすすめします。

7. (1) どのような試験も、なぜこの試験を受験するのかを自分の力でよく考えた上で、「受験生としての自覚」を明確に持ち続け、最後まであきらめなければ、一定の期間(ふつうは1年半、難しい試験の場合は3~4年間)受験勉強をすれば必ず合格します。

(2) ①では一体、受験生は、「受験生としての自覚」を持ったならば、1日に何教科を、何時間ぐらい勉強したらよいか、次に考えましょう。

②仕事や学校の授業がある日は、1日に4教科、8時間の勉強をおすすめします。
(これを、「1日4教科、8時間主義」といいます)

③仕事や学校の授業がない日は、1日に4教科、12時間の勉強をおすすめします。
(これを、「1日4教科、12時間主義」といいます)

(3) ①開倫塾では、受験勉強の中で、全教科の勉強の基本となる「読解力」を、「辞書・新聞・読書」に親しみ、「学習習慣」として身に着けることをおすすめしています。

②読書に大いに励み、「作者との時空を超えた対話」をお楽しみください。

また、英字新聞を含む新聞を、毎日30分以上、腰を落ち着けて1面からなめるように読むことで、日本や世界で今起きていることを知り、自分で考える力、批判的思考能力を身に着けてください。

③開倫塾では、学校で学ぶ教科の中で、受験に出題されない教科(音楽、美術、保健体育、技術・家庭、情報など)も価値があり、大切なものと考えます。

・授業をしっかり受け、復習・定着・予習を怠らず、定期試験の時には1~2か月前からしっかり勉強し、100点満点を目指すべきは、受験に出題されないこれらの教科です。

・内申点アップや奨学金の申請、推薦入試にも役立ちますので、受験に出題されない教科の勉強時間も、受験勉強の時間の中にお入れください。

8. (1) 「ビリギャル」の小林さやかさんは、通っていた塾の坪田信樹先生のご指導で、1日15時間の猛勉強を1年半続け、道が開けました。

(2) 15時間とはいませんが、大切な試験を受験する場合には、1年半、「仕事や学校のある日は、1日4教科8時間」「仕事や学校のない日は、1日4教科12時間」を目安に受験勉強をすることで、「自分の未来は自分の力で切り開く」ことをおすすめします。

(3) 大切なことは、何のためにその試験を受けるのかを自分でよく考えた上で、「受験生としての自覚を持って学ぶこと」です。

がんばってくださいね。

